

「認知症の人にやさしい小さな本棚」から 地域を見つめる

－地域包括ケアシステムの中で－

舟田 彰

川崎市立宮前図書館

1 地域の高齢化が進む中で

川崎市北部に位置する宮前区の人口は2016年5月1日現在、226,853人。微弱ながら増加傾向にある。一方、2010年の「平成22年市区町村別生命表」では男性平均寿命年齢が82.1歳（全国平均79.5歳）と全国第2位という統計がある。また、区内には認知症疾患専門病院が2014年開業し、認知症の方も含めた地域交流の場としての「認知症カフェ」も区内の数ヶ所で開設されている。

2 地域の課題に即した情報を提供する

館内においては認知症と思われる利用者やその家族が見受けられる。この状況を健康福祉局地域包括ケア推進室に報告し、宮前区役所の福祉セクションの職員等と情報交換を実施した。市の進める地域包括ケアシステムの施策を図書館として「情報」という視点で図書館資料を活用した、予防等の市民への啓発、生活支援など、個々の生活に結びつく情報を積極的に提供していくことを確認した。

3 「認知症の人にやさしい小さな本棚」常設設置

2015年12月、市民へ認知症の理解と認知症の方がいる家族、また専門職の方、さらに認知症当事者の方も含め、「認知症」に絞った情報コーナーを開設した。認知症をキーワードに資料を一つの棚に集め設置。さらに認知症に関する最新情報提供するため、各種セミナーや地域包括支援センターだよりなどのチラシやパンフレットもコーナー近くに集め配布するようになった。



4 連携を通して地域課題に即した、健康的に安心して暮らせるまちづくり

健康福祉局地域包括ケア推進室を所管課として宮前区役所などと連携し、事業モデルの推進協議会を設置。市の地域包括ケアシステムのモデル事業を通して図書館が認知症にアプローチしていく。

